

2024年度

# 学校評価報告

(自己評価、学校関係者評価)

学校法人 RWF グループ

四国中央医療福祉総合学院

## 自己評価について

### 1. 自己評価実施方法

学院長、事務局長、教務部長、各学科より選任された教員及び職員の代表で構成される自己点検評価委員会にて、評価項目の設定及び点検・評価を行う。

### 2. 評価について

自己評価基準は、「A：十分に達成している」、「B：達成している」、「C：達成がやや不十分である」、「D：達成が不十分である」の4段階の評価として明記し、評価項目に対しての解説を明記する。

### 3. 自己評価の項目

自己評価の項目は以下に示す10項目を大項目とし、大項目ごとに小評価項目を設定する。この評価項目については「専修学校における学校評価ガイドライン」（平成25年3月文部科学省生涯学習政策局）を参考とした。

#### 【評価項目】

- |             |              |               |          |
|-------------|--------------|---------------|----------|
| (1) 教育理念・目標 | (2) 学校運営     | (3) 教育活動      | (4) 学修成果 |
| (5) 学生支援    | (6) 教育環境     | (7) 学生の受け入れ募集 | (8) 財務   |
| (9) 法令等の遵守  | (10) 社会・地域貢献 |               |          |

### 4. 自己点検・評価の対象期間

2023年4月1日から2024年3月31日までの期間とする。

## 学校関係者評価

学校関係者評価委員

(敬称略)

①	愛媛県立川之江高等学校長	松木 義明
②	愛媛県立三島高等学校長	丸山 達也
③	愛媛県立土居高等学校長	二宮 敬則
④	四国中央市教育長	東 誠
⑤	元四国中央市教育長	野村 勝廣
⑥	元中学校校長	参鍋 正照
⑦	四国中央医療福祉総合学院後援会会長	藤田 博文
⑧	四国中央医療福祉総合学院 卒業生	星川 凜太

## 5. 評価結果の検証・分析

(今年度の良い点、悪い点、改善点、改善方法及び提案等を評価し、評価理由等を記載する。)

### (1) 教育理念・目的・人材育成像

小評価項目	評価
①理念・目的・育成人材像は定められているか	A
②学校における職業教育の特色はなにか	A
③社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	A

#### ■各評価項目解説

- ①本学院の教育方針として、開学より、「将来を見据えた人材育成」「即戦力として期待される人材育成」「自由な発想と責任感を併せ持つ心豊かなエキスパートの育成」を掲げている。また、ディプロマポリシー（専門士授与方針）、カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）等においても、HPや学生便覧に掲載している。
- ②本学院では、「従来の常識にとらわれない自由発想の学び」「ベッドサイドに立った一貫した医学教育」「よく学び、よく遊ぶ」「理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師・社会福祉士・精神保健福祉士とのチーム医療」というモットーを掲げている。そして、将来、チーム医療の現場で活躍できる高い実践力を持つ医療人を目指し人材育成をしている。なかでも、「よく学び、よく遊ぶ」は本学院の大きな特色としている。
- ③超高齢化社会を迎えている現在、それを取り巻く社会構造の変化とともに医療や福祉の分野も大きく変貌してきている。疾病構造も大きく変化し、癌、心疾患の増加や高齢化に伴う脳血管障害の増加、あるいは生活習慣病からくる廃用症候群、そして認知症の増加などの対応に迫られている。また、福祉分野においても介護保険制度導入後も、高齢化に伴って医療と福祉が一体となったシームレスな連携が重要となっている。このような状況の中、リハビリ、看護を担うエキスパートの緊密な連携が今後とも一層大切となっている。近年では、健康づくり・疾病等の予防への取組みも重要だとされており、本学院においても、予防医学等の教育内容をさらに強化していく。

#### 学校関係者評価

- ・高齢者の医療・福祉については上記のとおりである。しかし、学習面や行動面で著しく困難を示す発達障害があり、通学学級に在籍する小中学生の割合は、以前調査の6%台から8.8%へ増加している。このことも言語聴覚学科では注視する必要がある。
- ・職業教育の特色として「よく学び、よく遊ぶ」とあるが、イベント行事やサークル活動等をもう少し増やしても良いと思う。3年制という集中した学びのなかではあるが、増やす事で学生・教員同士の交流がより深まる事や学生の勉強に対するモチベーション向上につながると思う。
- ・作業療法学科では、福祉住環境コーディネーター検定試験への取組みもあり、住環境の知識があれば主に介護福祉で自室への訪問時等、福祉用具事業者だけでなくセラピストのアドバイスもしやすくより高齢者住環境の改善に繋がっていると思う。
- ・将来を見据えた高い専門性、実践力、人間力を兼ね備えた人材の育成を目指した教育理念で貫かれており、妥当な評価である。
- ・今後も、チーム医療を絶えず念頭に置き、人間力を高め、社会に貢献、還元できる人を育てて欲しい。学院のモットーである「よく学び、よく遊ぶ」は、学生にとって大変わかりやすく魅力的な言葉であり、人間性豊かな学生が育ってくれるものと思う。

#### 【今後の取組み】

本学院の教育方針や教育モットーである「よく学び、よく遊ぶ」を実践しながら、今後は社会のニーズの変化に合わせて教育活動を行っていききたい。また、チーム医療を絶えず念頭に置き、人間力を高めながら、社会に貢献できる人材を育成していききたい。

## (2) 学校運営

小評価項目	評価
①目的等に沿った運営方針が策定されているか	A
②事業計画に沿った運営方針が策定されているか	A
③運営組織や意思決定機能は規則等において明確にされているか	A
④人事、給与に関する制度は整備されているか	A
⑤情報システム化等による業務の効率化が図られているか	A

### ■各評価項目解説

- ①前年度（3月）に各学科長より各学科の目的に沿った方針が学科長会議、運営会議を経て理事会に提出され、理事会での承認をいただいて次年度（2024年度）の事業計画を策定している。
- ②理事会の承認を得た事業計画に基づき、運営方針が策定されている。
- ③運営組織（理事会）や意思決定機能（運営会議）等は、規則で明確にされている。
- ④人事（就業規則）、給与（賃金規定）に関する制度により整備されている。
- ⑤昨年度に引き続き Microsoft Teams(マイクロソフトチームズ)を使用し、教職員への周知事項や決定事項など情報システムの効率化に取り組んだ。

### 学校関係者評価

- ・教職員全員が学級経営、運営に関り、積極的に提案意見を述べる雰囲気醸成することも考えていただきたい。
- ・教育方針に沿った学校運営がなされている。
- ・情報システム化による業務の効率化が図られていることが素晴らしい。今後さらに、様々な面で、デジタル化を進めていただきたい。

### 【今後の取組み】

学校関係者評価にもあるように教職員全員が学校経営や運営に関わっていくということは非常に大切なことである。教職員全員が積極的に提案できる職場環境を目指し、そのシステム作りも考えていきたい。また、情報システムの効率化においては、さらなる効率化を目指していきたい。

### (3) 教育活動

小評価項目	評価
①教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	A
②学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	A
③関連分野の企業・関係施設等・業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直しが行われているか	A
④関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置付けられているか	A
⑤授業評価の実施、評価体制はあるか	B
⑥職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	A
⑦成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	A
⑧資格試験の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	A
⑨人材教育目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	A

#### ■各評価項目解説

- ①ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに沿って、授業は概ねシラバス通りに実施できた。また、初年次教育ではソーシャルスキルやコミュニケーションスキルの向上に向けた取り組みを行っている。また、本学院のモットーである「よく学び、よく遊ぶ」を教育の中に組み入れ実践している。
- ②理学・作業療法学科においては2020年度、看護学科においては2022年度から新カリキュラムでの体制となっている。また、言語聴覚学科においては、現在、2025年度より新カリキュラムになるため準備中である。今後はカリキュラムツリーやアセスメントポリシーを掲げていく。
- ③学外実習における実習指導者との連絡会議等を設けており、今の時代に合った学生の実習方法や指導方法について随時見直しを行っている。
- ④4学科、それぞれの専門性における現場実習を設けており、1学年～3学年までディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づいて体系的に位置付けしている。
- ⑤授業評価においては、各学科学科長により、評価結果を基に、振り返りを行い、教授方法の改善に努めている。今後は学生アンケート等の導入をしていく。
- ⑥学外実習において、実習指導者の評価を取り入れている。
- ⑦成績評価や単位認定においては明確な基準を設け、運営会議で協議し判定をしている。
- ⑧国家資格の取得のために、各学科、カリキュラム外で学習支援を行っている。3年次の国家試験対策では担任・副担任を中心にグループワークや個別指導、そして、成績低迷者においては、補習等を行いながら実施している。
- ⑨経験年数等も充分にある教員を確保しており、講義では、教科書だけではなく、現場の内容も組み込みながら実施している。

#### 学校関係者評価

- ・国家資格の取得を目標としていることも十分理解しているが、現場に出たときに必要な課題解決能力の育成も大切だと考える。グループや個が課題を見つけ、それを解決する手だてを身につけることを学生のうちに実践させる。
- ・試験後誤った問題の箇所が分からない為、復習する際に学生の勉強効率が下がっていると思う。
- ・学外実習は、知識を実践力に変える貴重な学生キャリア形成や職業観育成の場と考える。C評価が改善されるよう、よろしく願います。座学においてもICTを積極的に活用することで、より質の高い教育・興味や意欲のわく授業に繋がると思う。
- ・今後、四国中央病院が隣接地に移転することで今以上の教育活動の充実が期待される。このことも生徒募集の際にアピールすべきである。

#### 【今後の取組み】

教育活動は学校の根幹であり、学校関係者評価委員からいただいたご意見は真摯に受け止め、カリキュラム・授業評価・学外実習・成績評価・単位認定、そして、国家資格取得まで、それぞれの学年の教育目標の見直しを行いながら日々前進していきたい。在校生が「この学校で学べて良かった」と思える教育をしていきたい。

#### (4) 学修成果

小評価項目	評価
①就職率の向上が図られているか	A
②資格取得率の向上が図られているか	A
③退学率の低減が図られているか	B
④卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	B

##### ■各評価項目解説

- ①2023年度の就職率も昨年に引き続き100%を達成できた。しかし、近年の求人状況をみると、近い将来、県内において就職先が少しずつ減少していくことも予想されるため、就職先の開拓（福祉分野）が必要になる。
- ②2023年度の国家試験新卒合格率においては作業療法学科と言語聴覚学科は100%が達成できた。理学療法学科は僅かであるが全国平均を下回り、看護学科は下回った。また、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科において現役生は100%を達成できた。

【直近3年間の新卒合格率】（ ）は全国平均

学科	2023年度	2022年度	2021年度
理学療法学科	93.8% (95.2%)	100.0% (94.9%)	91.3% (88.1%)
作業療法学科	100.0% (91.3%)	88.8% (91.3%)	100.0% (88.7%)
言語聴覚学科	100.0% (87.3%)	70.0% (81.6%)	100.0% (87.3%)
看護学科	82.5% (93.2%)	100.0% (95.5%)	94.6% (96.5%)

- ③4学科全体の退学率は、2023年度4.2%、2022年度3.2%、2021年度3.4%ではあるが、ゼロにはなっていない。退学理由としては、成績低迷や心身の不調によるものが多い。心身に問題を抱える学生や成績低迷者の早期発見・対応をより強化していく必要がある。
- ④学会での発表実績や認定資格（認定作業療法士など）を取得している。また、理学療法学科1名、作業療法学科は2名、言語聴覚学科1名の卒業生が本学院で専任教員として在籍している。

##### 学校関係者評価

- ・中途退学者を生まないためにきめ細かな指導・支援が必要であり、早期から学生、保護者、学校が連携を密にする。
- ・成績低迷に対しては、補習等でより時間を設けどこが理解不十分なのか細かく指導していくと減少すると思う。心身の不調に対しては、学生間の仲を深めるようなイベントや遊びをより増やし、気分転換の時間を設けることで改善に繋がると思う。
- ・就職率100%は素晴らしい。資格取得は、最も重要な部分であると考え。よって、資格取得率の分析・対策が講じられていると思うが、より踏み込んだ対策をお願いしたい。退学者については何年次に多いのか分からないが、少し分析した対応が必要かと思う。また、近年の傾向として本学院にかぎらず、進学先や職業への選択が安易な傾向であったり忍耐力等に課題があったりするならば、高校との情報共有やキャリア教育の取組の参考にしてもらうことも必要かと思う。
- ・今後も国家試験合格率が高い数値を維持できるよう指導をお願いします。退学者が1名でも減少するよう、家庭や本人との連携、指導をお願いします。
- ・看護学科の国家試験新卒合格率が2023年度だけ極端に低くなっておりませんが、全国平均も下がっていることから、受験生にとって難しい試験だったのでしょうか。他の学科の合格率は素晴らしいと思います。

##### 【今後の取組み】

今後も中途退学者を生まないためにきめ細かな指導・支援を実施し、早期から学生、保護者と密な連携を図り退学者が1名でも減少するよう努めていきたい。また、退学者の理由や時期を細かく分析して日々の指導・支援に活かしていきたい。

国家試験合格率においては、新卒100%を目指し、最低でも全国平均を上回れるように学生をサポートをしていきたい。

## (5) 学生支援

小評価項目	評価
①進路・就職に関する支援体制は整備されているか	A
②学生相談に関する体制は整備されているか	A
③学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	A
④学生の健康管理を担う組織体制はあるか	A
⑤学生の生活環境への支援は行われているか	A
⑥保護者と適切に連携しているか	A
⑦卒業生への支援体制はあるか	A

### ■各評価項目解説

- ①進路・就職支援に対し、図書室等に求人情報コーナーを設置し、県内外に分けてファイルを作成し、いつでも閲覧できるようにしている。また、各学科で積極的に履歴書の作成や面接マナー等の指導をしている。
- ②定期的に学生面談を設け、教職員での情報共有を行っている。また、学生相談室を設け、担任・副担任に相談しづらい内容にも対応している。
- ③昨年度同様 2023 年度の新入学生において市内在住中の学生は市から入学金 15 万円の助成金をいただいた。その他、奨学金や社会人には一般教育訓練給付金や作業療法学科・看護学科においては、専門実践教育訓練給付金の受給体制も整えている。また、学院独自の学生アシスト制度として、在校生特待生制度、大学卒業支援制度、家族優遇制度を設けて補助している。
- ④健康管理においては年に 1 回定期健康診断を全学生に実施している。検査結果において、異常値が確認された際は、学生・保護者に相談したうえで、再受診を促している。また、食堂のメニューとして健康管理を意識した定食を提供している。
- ⑤生活環境への支援としては、学院専用ワンルームマンションを設けている。また、平日においては伊予三島駅一本学院までのシャトルバスを朝 1 回、夕方 2 回、運行している。敷地内には自家用車の通学者のための有料駐車場（138 台）を設けている。
- ⑥入学時に保護者説明会を実施し、学校の教育方針や成績判定方法、進級判定や卒業判定の基準を理解してもらっている。学生の出席状況や生活態度等に問題がある場合は、こまめに保護者に連絡をし、情報共有を行うなどの連携を図っている。また、成績低迷者においても、定期試験結果等を保護者に連絡している。さらには、1 年生の夏に三者面談を設けて、学校生活の様子を伝えたり、自宅での様子をヒアリングし、今後の学生指導に活かしている。2・3 年生においても随時、保護者との面談を行っている。
- ⑦卒業したが、国家試験に不合格であった者に対しては、本学院に通って学ぶ制度（科目履修生制度）を設けており、通うことが難しい卒業生には課題の送付や模擬試験等への参加を促すよう連絡を取っている。また、資格を取得し就職していた卒業生の仕事の悩みや転職等の相談にも対応している。

### 学校関係者評価

- ・卒業はしたが、資格取得に至っていない学生について、取得できるよう手厚い指導をお願いしたい。
- ・卒業生と教員との関係性は良い印象を受け、自身も本学院を卒業し就職している際、仕事上の悩みや相談に快く対応して頂いた。
- ・学生支援において、様々な面で丁寧な取組を進めていただいていることが分かる。様々なニーズに対応する必要があると思うが、生徒の明るい将来につながるようよろしくお願いします。市内出身者が、市内で就職し力が発揮してもらえるような手立てもお願いします。
- ・卒業してしまうと連絡がなかなか取れないケースもあると思いますが、不合格になった学生に対しても今後も手厚い支援をお願いします。

### 【今後の取組み】

今後も引き続き丁寧な学生支援をしていきたい。また、在学生のニーズを把握するためにもアンケート等を実施する機会を設け、在生とともに学院づくりをしていく体制を整えていきたい。

## (6) 教育環境

小評価項目	評価
①施設・整備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備しているか	A
②学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	A
③防災に対する体制は整備しているか	A

### ■各評価項目解説

- ①関係法令において必置と定められた施設・設備・教育機器のほか、教育上必要な施設・設備・教育機器等も整備している。昨年度は、本部棟講堂・視聴覚室の照明をLED化し、過ごしやすい学習環境の整備を行った。インターネット環境(全教室Wi-Fi等)の整備はできており、必要に応じて遠隔授業(オンライン等)もスムーズに実施できた。施設・設備・教育機器等の具備状況については、その都度確認し、教育上、必要な物品等においては、修繕可能な物品は修繕し、修繕不可能なものは随時、購入している。
- ②4学科とも学外実習施設においては、医療機関、介護施設等において実習が行われている。また、臨床実習指導者講習会を受講した指導者に指導していただいている。また、その中で、学生に不利益が生じないように密な連絡を図っている。
- ③エレベーターや防災関係設備・管理を行っており、毎年10月に消防署の立ち合いのもと消防訓練を行っている。また、シェイクアウトえひめの防災訓練にも参加している。学校内における不慮の事故や災害に備えて、学生保険に加入している。AEDを設置し万一の事態に備えている。

### 学校関係者評価

- 各教室において、PCやプロジェクター等を活用した授業を実践しているが、電子黒板など教育機器の充実を図ってほしい。
- 南海トラフ地震がそう遠くない時期に発生するとの予想もある。埋め立て地であり海に近い、地震による津波液状化などへの対策を地域(市や自治会)との連携も考えておく必要がある。
- すべてA評価で環境整備されていることは素晴らしいと思う。
- 海岸が近く、海拔も低い位置に設置されているため、津波への対応をしっかりと準備すべきではないでしょうか。

### 【今後の取組み】

学校関係者評価にもあるよう南海トラフ地震への対策は不十分なため体制の整備が必要である。毎年1回の消防避難訓練のあり方も再考していく必要がある。

教育上、必要な物品においては電子黒板などデジタル化をさらに強化していく必要がある。また、医療の発展に伴った、最新の医療機器等も取り入れ教育に活かしていきたい。

## (7) 学生の受入れ募集

小評価項目	評価
①学生募集活動は適正に行われているか	B
②学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	A
③学生納付金は妥当なものになっているか	A

### ■各評価項目解説

- ①教職員による学校訪問やガイダンス、オープンキャンパス、SNSの発信等、学校の広報活動を積極的に行っている。近年、入学者数減少のため、本学院の魅力を伝える更なる工夫と努力、広域に広げての募集活動が必要がある。
- ②就職状況はパンフレットに記載している。国の修学支援制度についても、ホームページやパンフレット等で告知している。
- ③入学金、授業料及び実習費は、同種の専修学校の設定額に鑑み、適切に定めており、妥当である。

### 学校関係者評価

- ・生徒減少のため、学生確保がむずかしいと思われる。四国全域に限らず、通学圏の岡山方面も対象にした方が良い。
- ・オープンキャンパスを開催する頻度は多い印象を受け、参加しやすい。学院内の案内や各学科の体験学習等その内容も分かりやすかった。
- ・以前は、TVを活用した宣伝活動をしていたが、最近はあまり見かけない。どの学生も挨拶はよくでき素晴らしい校風であるので情宣活動に力を入れたらどうかと思う。更なる学校訪問を充実し、校内でそれを生かして貢献できるような魅力を発進してほしい。
- ・市内唯一の専門性を有する専門学校である。今後、急激に少子化が進行し、進路の選択肢も多様化する中、入学者の減少が懸念される。地域医療を支える人材の確保のためにも、是非募集活動を頑張っていたらいいと思う。
- ・四国中央市内の中学校卒業予定者は、5年後には今より約100名減少することが予想されており、高校も生徒数確保は大きな課題です。広報活動を充実させながら今在籍している一人ひとりの生徒を大切に育てていくことが、生徒数（学生数）確保につながっていくと考えています。
- ・8～9割の入学生が愛媛県内ということであったが、さらなる入学者増のためには、県外（広域）での募集活動の充実が必要であると考えます。

### 【今後の取組み】

学校関係者評価委員のご意見でもある四国中央市で唯一の医療系専門学校として地域医療を支える人材の確保が大切である。今後、さらに少子化が進行し入学者の確保が難しくなってくることは間違いのないため市内・県内だけではなく、県外からの入学生を増やすための広報活動も大切である。近年の進路の選択肢が多様化する中で、「選ばれる学校」を目指し教育活動と広報活動の充実を図っていく必要がある。

## (8) 財務

小評価項目	評価
①中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	B
②予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか	B
③会計監査が適正に行われているか	A
④財務情報公開の体制準備はできているか	A

### ■各評価項目解説

- ①長期借入金等の負債などを返済できる資産は保有できているものの、ここ数年学生生徒等納付金が減少しており注意を要する。
- ②計画的な予算執行をする努力をしているものの、恒常的な経費も多い中で十分な効果を得られていない。まだまだ教職員の認識を高め努力していく必要がある。
- ③公認会計士（外部監査）による監査及び監事監査（内部監査）を実施しており2重のチェックを行えている。
- ④求められれば財務情報公開できる体制となっている。

### 学校関係者評価

- ・市内で唯一の専門学校であり、学校の成果をあげ入学者の増加に更に務めると共に市の補助の増力を図る必要があるのでは・・・。
- ・少子化・入学生の減少に係る影響は、社会の様々な分野においても大きな課題となってきた中で、手立てを講じながら経営されていることが伺える。財務に関しても、全教職員が認識できる場所は共通認識し合い、有効活用に努めていただきたい。

### 【今後の取組み】

財務の状況は、ここ数年入学生が減少することによる学生生徒等納付金が大幅に減少している。「(7) 学生受け入れ募集」の取組みと重複するが、市内・県内でだけでなく県外からも広く募集し、入学生を増やす広報活動を行っていきたい。また、学校関係者評価委員のご意見にもあるように財務に関して認識できる場所は共通認識し合うことで有効活用し、学院の財務回復に努めたい。また、市との連携を強化し、補助の拡充も働きかけていきたいと考える。

## (9) 法令等の遵守

小評価項目	評価
①法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	A
②個人情報に関しその保護のための対策が執られているか	A
③自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	B
④自己評価結果を公表しているか	A

### ■各評価項目解説

①法令、設置基準等に沿った運営を行っている。

②個人情報の取り扱いについて教員相互で注意をし、相互意識を高めることに努めている。また、学生についても友達同士の個人情報（SNS での取扱い）や実習知り得た個人情報の取扱いについて規定を設け細心の注意を払うよう指導を行っている。

③毎年自己評価を実施し、問題点については学院内で検討し改善に努めているが、達成できない場合もあり今後も達成するための努力が必要である。

④本学院 HP 上で公開している。

### 学校関係者評価

・個人情報の保護についての的確に対応されていることは、学生には、今後の職業においても大変重要になると考える。

### 【今後の取組み】

法令に沿った適正な運営ができており、今後も引き続き適正な運営に努めたい。ただし、自己評価の実施に伴い出てきた問題点について学院内で検討し改善に努めているが、達成できていない場合もある。今後も達成するために引き続き取り組んでいく必要がある。

## (10) 社会貢献・地域貢献

小評価項目	評価
①学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	A
②学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	A

### ■各評価項目解説

- ①四国中央市が主催する健康まつりや個別ケア会議、障害者認定審査会の委員になっている。また、市内中学生対象に職場体験を行っている。本学院主催で中高生向け講座（リハビリ学科）や看護の日（看護学科）を開催し職業の啓蒙活動をしている。その他、リハビリ専門領域の研修会での場所や実技等を行う際の器具を提供している。
- ②四国中央市の市民ボランティアセンターと連携を取り、ボランティア活動の推奨・支援をしている。教員が市のボランティア市民活動推進協議会の委員となっている。

### 学校関係者評価

- ・学生の力は無限にあるので、活動は学内にとどまらず積極的に学外へ出て行き、県、市、地域団体の行事等に参加し、交流を図る。
- ・施設等に入居しているお年寄りは家族と切り離されたという疎外感を持った寂しさを抱えた人も多くいると思うし、社会との隔絶感を持った孤独感を持った人も沢山いる。そういう人に若いエネルギーやパワー、楽しさを与えてあげられる定期的な訪問ボランティアがあってもいいかなと考える。
- ・学生がボランティアとして参加している姿を見かけることがあり、有難いなと思っている。学生にとってはボランティア活動することにより、日常生活や授業では得られない知識や経験などを得ることができるだろうし、このような体験の積み重ねが、本市への親しみや愛着を醸成し、地元への定住に繋がればと思う。また、若い力が市のイベント等を盛り上げ、本学院のアピールにもなっていると感じた。
- ・地域や社会への貢献は、校種の違いはあっても、常に求められていることですので、今後とも継続してください。
- ・特に東予地区（四国中央市内）には、他に同様の専門学校等の高等教育機関がないため、是非とも地域への還元に力を入れてほしい。

### 【今後の取組み】

四国中央市で唯一の医療系の専門学校として、積極的に学外に出ていき、社会貢献していきたい。

ボランティア活動は本学院から毎年一定数の参加は継続して実施してきた。また、コロナ禍前は、リハビリ学科の1年生は授業の中で、デイサービスに出向き、高齢者を対象にレクリエーション等を実施させていただいていた。今後は、次年度に向けてカリキュラムの一つに組み入れていけるように授業計画を立案していきたい。

看護学科の1年生においては、四国中央市の方と協力して実施する講義があり、今後も継続していきたい。

学外での活動により学内では得られない知識や経験を得ることができ、結果、学生本人も自己概念を大きく膨らませることができる。さらには、この四国中央市に愛着が生まれ地元へ貢献していけると考える。

今後は、市や地域団体の行事等に積極的に参加し、交流を図り、より強い繋がりを構築していきたい。

## 6. まとめ

本学院における最も大きな課題は高校生数が減少していく中での入学生の確保と考える。

そのためには、学校関係者評価委員のご意見も取り入れながら、教職員一丸となり今後を見据えた広報戦略を考えていきたい。また、教務関係としては、社会のニーズに合ったカリキュラム内容等の見直し、教員の高い人間力と学術スキルの向上、学生サポート体制の充実のさらなる強化に努めていきたい。

そして、四国中央市で唯一の医療系専門学校として「選ばれる学校」を目指し、地域とのより強い繋がりを構築しながら社会貢献していきたい。